

所属研究団体日本遺伝学会 平成30年度 事業報告

事業計画の概要

本会は遺伝に関する研究を奨め、その知識の普及をはかるため下記の諸事業を行った。

1. 学会誌Genes & Genetic Systemsの発行(隔月1回)

- (1) Vol 92 No.4~No.6および Vol 93 No.1~No.6を発行した。
- (2) 国内外への顧客への頒布をVol 92 No.4~No.6までは50冊、Vol 93 No.1からは35冊を日本出版貿易に依頼した。
- (3) 別刷論文の注文を受けつけし、12件、76,172円の売上げを計上した。(93-4まで)
- (4) GGS PRIZEについて、颯田委員が3編を最終候補として選抜し、その後、編集委員・編集顧問合同会議で審議の結果、その中から次の1編をGGS PRIZE 2018として決定した。

Title: Interplay between chromatin modulators and histone acetylation regulates the formation of accessible chromatin in the upstream regulatory region of fission yeast *fbp1*.

Authors: Akira Adachi, Satoshi Senmatsu, Ryuta Asada, Takuya Abe, Charles S. Hoffman, Kunihiko Ohta and Kouji Hirota.

2. 年次大会の開催(平成30年度第90回大会を奈良先端科学技術大学院大学にて開催した。)

- (1) 学会員を対象とした一般口頭発表を開催した。
(一般講演111演題、ポスター発表28演題)
- (2) 国際的に活躍している研究者のDr. Nick Rhind (University of Massachusetts Medical School) とDr. Charles I.White(UMR CNRS), Dr. Christopher West (University of Leeds) Dr. Ken-ichi Noma (The Wistar Institute) を招聘し、国際シンポジウムを開催した。(2件13演題)
- (3) テーマ毎による会員、非会員によるワークショップを開催した。
(9件46演題)
- (4) 大会で発表する学生の大会参加旅費の一部(31件、772,000円)を援助した。
- (5) 男女共同参画推進として大会へ参加するための一部(1件、44,640円)を支援をした。また、大会中にランチョンワークショップ「やまとは くにのまほろば!？」を開催した。
- (6) 第89回大会Best Paper賞受賞者3名によるプレナリーワークショップを開催した。
- (7) 第90回大会一般口頭発表者からすぐれた成果を発表した13名をBest Paper賞候補者とした。
- (8) 第90回大会ポスター発表者からすぐれた発表をした6名にポスター賞(Young Best Poster 賞)を授与した。
- (9) 台湾(Academia Sinica)から学生2名を招聘し、大会にて口頭発表をしてもらい国際交流をはかった。また、学生の希望する奈良先端科学技術大学院大学高木博史先生、森浩禎先生、筑波大学産業技術総合研究所 深津武馬先生、首都大学東京 田村浩一郎先生の研究室訪問の支援を行った。
- (10) 公開市民講座『遺伝学のパワーで拓く新時代 ~教科書にも使われる遺伝学用語の大幅な改訂を知っていますか~』を開催した。
- (11) シニアレクチャーランチョンセミナーを開催し、シニア会員から、池村淑道先生(長浜バイオサイエンス大学)、関口睦夫先生(福岡歯科大学)にご講演いただいた。

3. 木原賞・奨励賞の授与

6月24日に国立遺伝学研究所にて開催された学会賞選考委員会で審議の結果、次の会員を授賞者とした。

木原賞：中別府雄作会員

奨励賞：関由行会員、大学保一会員

4. 遺伝学談話会の開催

関西地区評議員の佐渡会員が世話人として、第17回遺伝学会談話会が近畿大学農学部にて開催され、同大学の篠原美紀先生と築山拓司先生にご講演いただいた。

5. 春季分科会

初開催となる「日本遺伝学会第1回春季分科会-遺伝学の将来を考える-」を3月8日（金）に開催し、北野潤先生（国立遺伝学研究所）に研究基調講演をしていただき、会員、非会員によるポスター発表を行う。

6. 委員会の活動等

(1) 遺伝学教育用語検討委員会

昨年9月に遺伝学会用語編集委員会が中心となり「遺伝単」を発行した。学会として引き続き遺伝学に関する学術教育用語の整理を行っていきたいと考え、用語編集委員会の後継として「遺伝学教育用語検討委員会」（委員長 榎屋幹事）を設置し、遺伝単の改定作業に取り組んだ。

(2) 男女共同参画推進委員会

本学会は男女共同参画推進学協会連絡会に加盟しており、大会への支援や、ランチョンセミナーを開催した。

(3) 生物科学学会連合

「生物科学」の健全な発展のために各学協会と協力し活動を行なった。生物科学連合パンフレット2018の発行に尽力した。

(4) 自然史学会連合

本学会は自然史科学の研究・教育の振興を目的として、動物学・植物学・地学など主に基礎的な野外科学に関連する学会と協力して、関幅広い活動を進めた。

7. ホームページのリニューアルについて

(株) ラフラからレタープレス（株）に変更した。